



0512-1

「太陽に向かい伸びる花のように」

津南町の広場、50万本のヒマワリに囲まれ結婚式

約50万本のヒマワリが咲きほこる津南町芦ヶ崎の「ひまわり広場」で25日、新潟市東区の会社員佐藤喜人さん(24)、智恵美さん(25)夫妻が結婚式を挙げた。写真。「太陽に向かって伸びるヒマワリのように、元気でたくましい家庭を」と焼け付くような愛を誓った。

町と国際ホテル・ブライダル専門学校(同市中央区)が2005年にはじめた「ひまわりウエディング」。佐藤さん夫妻は同校の同級生で、当時、1回目のプロデュースにかかわった。卒業後に入籍し、長男喜三くん(3)も誕生した。「交際のきっかけになった思い出の場所で式を挙げたかった」という。

同広場は町の観光名所で、昨夏は約6万7千人が訪れている。

アツアツアツの二人

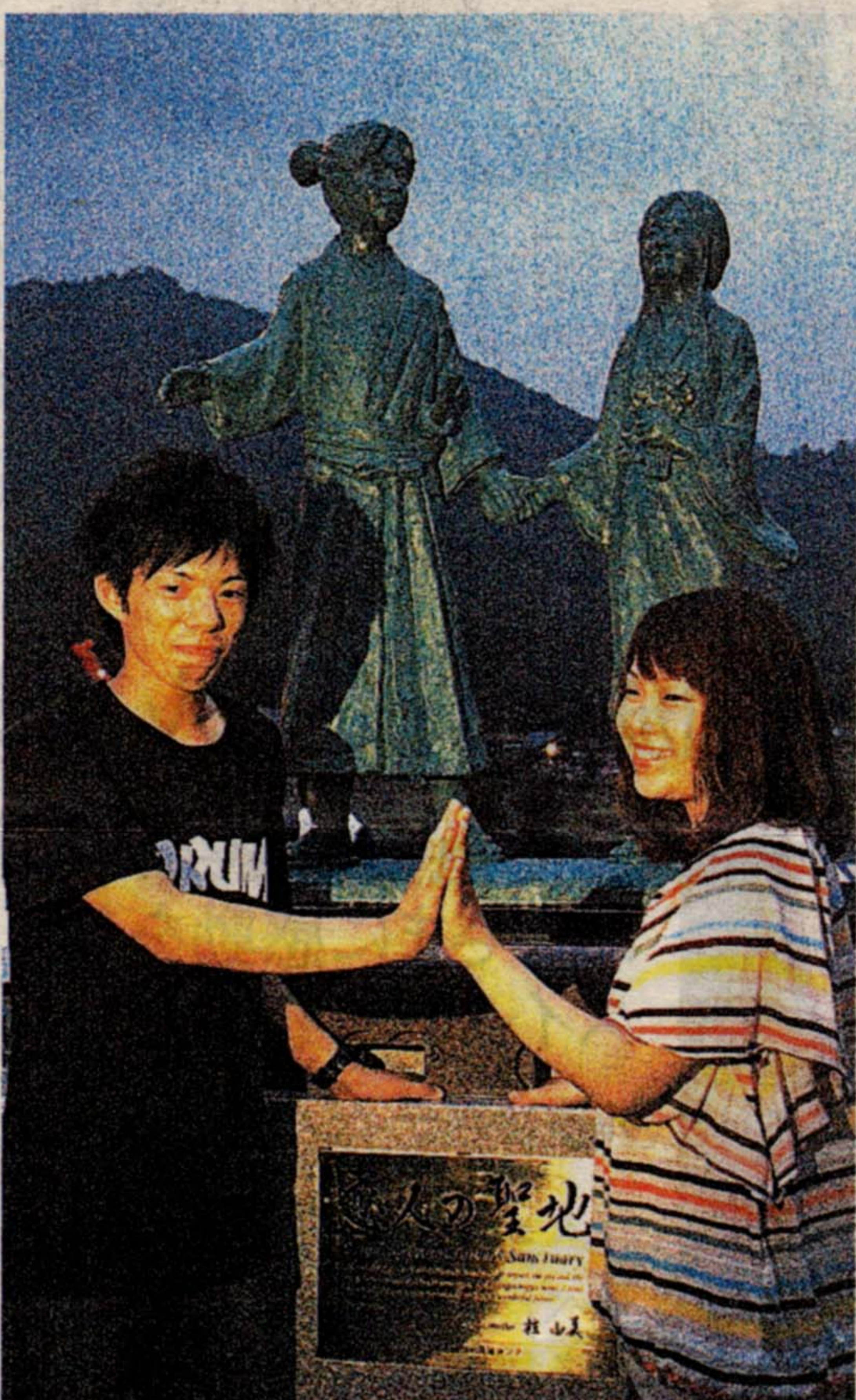
「恋人の聖地」銅像が除幕

南魚沼の六日町大橋

「恋人の聖地」に選ばれている南魚沼市の六日町大橋(通称・愛の大橋、橋長約170m)にモニュメントが立ち、選定委員のファットションデザイナー桂由美さんたちが25日、除幕した。

恋人の聖地は、NPO法人地域活性化支援センター(静岡市)がプロポーズにふさわしい場所として選定。六日町大橋は、大河ドラマの主人公直江兼続の生誕地として市が

銅像前で手を合わせるカップル。25日、南魚沼市の六日町大橋



観光に力を入れていることや、兼続が「愛」の文字をかぶとに付けていたことから昨年選ばれた。モニュメントの銅像は、お六(兼続の幼名)と上杉景勝の妹桂姫の恋物語に

ちなんだもので、台座に手を差し込むと、ボサノバ歌手小泉ニロさんが歌う「お六甚句」が流れる。市と地元青年会議所が制作した。(服部誠一)

(服部誠一)